

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	(1) 「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 (2) 「日本人としての美徳を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質」を培う。						
重点目標	I 知育の推進	II 徳育の充実	III 健康な身体の育成	IV 豊かな生活の追求	V 家庭地域との連携	VI 生徒募集の充実	VII 教育施設設備の活用
	評価項目	令和7年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標	令和6年度実施状況	学校自己評価		学校関係者評価	
				評価	教員コメント ▲：改善 ◇：提言	評価	評価委員コメント ▲：改善 ◇：提言
I 知育の推進	授業の充実と 難関大学進学に向け啓発・ 学びの自覚向上	① 数・英等で発展学習実施 3grp 編成と運行の工夫 英検 3/P2/2/P1 級等主に二次指導（放課後等） 英語「NEW TREASURE」採用、「Metro」継続	① 各学年英数の 3grp 習熟度編成を実施。時期、編成変え等は学年の実情に合わせた。概ね機能している。フォロー指導について工夫をしていきたい。	A 21% B 61% C 8% D 10%	▲教科間の温度差があり、不十分なものもある。 ・全体的に学力が低下しているが、高校に進学してから難関大学に進学できるように基礎力教科に努めている様子が見られる。 ・習熟度別授業や少人数教育を取り入れきめ細かい指導ができています。 ◇教員のスキル・経験等で格差が生じないようにしたい。 ・理科では高校化学生物物理を意識しながら行っている。 ・学年によって自覚を促すことが不十分で結果につながっていない部分がある。	A 0% B 88% C 0% D 12%	・英語に力を入れている。国語も大切。 ・小人数制等細やかな指導を行っている。 ◇中学時代から難関大学を目指す雰囲気づくりが大切。 ◇受験まで時間が充分にあり、早いうちから意識を高めていってほしい。 ◇中高一貫のメリットを活かした特長あるカリキュラムを期待している。 ・中学受験を何のために行ったかを、あらためてよく自覚できるようになると良い。 ▲必要な教科について底上げやテコ入れを行ってほしい。
		② 国・数・英等で反復学習、底上げ推進 各単元の各問題演習の達成率共有	② 日常的に小テスト、課題、演習を適度に取り組んだ。達成度確認の演習や単元テストなどの工夫を検討したい。				
		③ 補習補強の柔軟な実施、自己学習力の育成 ICT 活用：スタディサプリ運用の工夫 到達度テスト・課題／チェックに活用 デジタル指導書の活用 放課後学習の活用 各単元の各問題演習の未達成部分の補習 授業のライブ配信	③ 課題を日常的計画的に出すことと単元ごとの達成度に応じて補習等に取り組ませることを推進し、習慣化させたい。				
		④ 進路講演・キャリア教育等啓発指導・活動を実施 上級生、OB、進路担当、学年、外部講師招へい MIRAI Project (M/P) 時数増し キャリア教育推進	④ 2月に J3 対象進路を実施。 9月から2月にかけて、全学年探求学習（M/P）を実施。（株）トゥワイス・リサーチ・インスティテュートが提供する「TWICE PLAN」の「グローバルリサーチワーク」、「企業インターワーク」を活用し、社会課題解決学習や企業インターン体験活動を行った。PC を使い、G/W を通して、解決策を導き出した。 ※G/W: グループワーク				
		⑤ 学力推移調査前後の学級／学年指導 個別目標設定や情報共有（中高関係職員）	⑤ 実力テストの結果を共有し、個別と学年の目標を意識し事前事後指導や授業、進路指導に活かした。 中高共有フォルダーを設けた。				
		⑥ 授業計画、副教材の見直し	⑥ 大きな変更は特になし。運用を状況に合わせ若干調整した。				
		⑦ 学習時間記録と把握 個別／一斉指導 フィードバック（FB）による 家庭との協働充実 一斉指導	⑦ 学習計画指導や記録等を書き残す際の手だてを定めておきたい。学校側から懇談会等々において情報提供していきたい。				
	外部模試等で 学力把握	① ベネッセ学力推移調査三科目受験と事後指導 64 以上 60 以上 50 以上 40 以上 J3 3(1)% 3(6)% 33(30)% 50(48)% J2 3(3)% 3(6)% 33(32)% 41(45)% J1 5(3)% 7(4)% 27(32)% 36(40)%	① J3 9月② 64< 1% 60< 3% 50< 33% 40< 44% 4月① 64< 1% 60< 1% 50< 26% 40< 51% 最上位層育成に課題が残ったが、底上げに成果を収めた。学習集団づくりも大きなポイントだった。	A 21% B 65% C 6%	・ベネッセテストなどを継続して取り組んでいるので、各自の把握につながっている。 ・全体的に学力が低下しているが、それなりに個々を伸ばしていると思われる。	A 12% B 66% C 0%	・客観的な判断材料は必要である。 ◇入試の結果を分析して、高校生活をどう過ごすかじっくり考える機会があるとよい。 ▲模試を振り返り、その後の復習方法を正しく知り、次に活かせるようになってもらいたい。 引き続き指導をお願いしたい。

	在籍 J3 63名 J2 65名 J1 59名	※J1 は第一回目以降検討 ※それぞれの数値は単純の数値を表す ※（ ）内は令和6年度の目標数値、参考 ② 実力確認テスト（明誠高校入試）受験 J 3：目標進路の学力水準達成 五科目 J 2：基礎基本問題の習熟と確認 三科目 ③ 英検受験 年度末（2月）の時点 J3 準2級以上 41(19)% 3級 43(39)% J2 3級以上 56(29)% 4級 40(43)% J1 4級以上 35(32)% 5級 35(45)% ※J1 は第一回目以降検討 ※それぞれの数値は単純の数値を表す ※（ ）内の数値は令和6年度の目標数値 ④ 各試験結果受取後の一斉学級／学年指導 情報や目標の共有 (中学部・高等部・教科担当)	J2 1月③ 64< 3% 60< 3% 50< 40% 40< 44% 9月② 64< 0% 60< 3% 50< 33% 40< 42% 4月① 64< 0% 60< 3% 50< 24% 40< 50% 底上げが進んだ。学習集団づくりや最上位層の育成にも期待がかかる。 J1 1月③ 64< 3% 60< 3% 50< 27% 40< 37% 9月② 64< 3% 60< 0% 50< 31% 40< 36% 4月① 64< 0% 60< 0% 50< 28% 40< 43% 最上位層が複数出た。中位層に刺激策を施し、また学習集団づくりを継続し、底上げをさらにねらいたい。 ②J3 日頃の努力の成果を堅実に発揮することができた。学習環境が年度後半以降日増しに整い、学習に勤しむ姿が日常的となった。目標進路水準にまだ及ばない点については引き続き対策を施し、3月下旬のスタディサポートに備えさせたい。 J2 概ね例年同様既習事項に対してできる範囲内で解答している。上級生同等以上の成果を出した者もあり、4月のベネッセテストを意識しつつ、次の学習集団づくりや対策に向かっていきたい。 ③ J3 2級 準2級 3級 4級 5級 2月 3(4)% 28(18)% 37(38)% 18(21)% 4(13)% 10月 3(1)% 20(14)% 43(40)% 23(26)% 4(13)% 良好な取り組みにより、全体的な底上げが徐々に進んだ。 J2 2級 準2級 3級 4級 5級 2月 0(1)% 13(16)% 30(27)% 35(25)% 19(10)% 10月 0(0)% 3(6)% 33(18)% 38(31)% 22(22)% 好成績を出す層が厚くなってきた。全体で一層盛り上がっていく環境を築き上げていきたい。1級2%。 J1 2級 準2級 3級 4級 5級 2月 2(0)% 3(3)% 9(17)% 40(35)% 31(38)% 10月 2(0)% 0(2)% 8(6)% 23(34)% 35(39)% 概ね受験意欲が良く、高い成績を出す者もいる。功を焦ることなく、堅実に学習を進めていきたい。 ④ 各学力層の到達度の管理とフォロー指導の充実が求められる。	D 8% ◇ベネッセテストの振り返りや、生徒への働きかけは毎年行っている。強化策を打ち出し、実行していきたい。 ◇実施はしているが中学部や教科で分析する時間を設けた方よいと思う ◇理科や社会でも外部模試を実施してほしい。 ・定期的に振り返る機会になる。	D 22% ◇学力向上にもっと取り組んでほしい。 ・外部模試受験は自身の実力把握のために重要。 ◇こつこつと学習環境を整えていくことは大事。 後輩たちにも先輩の姿を示して、良い影響を与えたい。
	外部模試等で 学力把握				

1 知育の推進	生きる力や総合力をはぐくむ活動の設定	① 学習・体験活動等とその目標成果の整理・広報・見える化・発表等を通し、主体性、総合力育成の場とする 行事ごとの一斉指導 手立ての引き継ぎ ・MIRAI Project キャリア教育推進 全学年 後期より 配当時間増加 ・体験入学会運営と校内ツアー実施 J2 6月 交流会 2月 ・説明会のプレゼン担当や体験学習会の講師／助手 内進生 J1～S1 通年 ② 実行委員会を組織した委員会・生徒活動主体的な目標設定・協働充実 リーダーシップ・フォロアーシップ育成 ③ 発達段階や興味を踏まえ、朝読書を奨励する 強化週間の取り組み 成果のアウトプットと共有、周知により自己分析と他者の理解を促進	① 振りかえりシートを通年で活用した。内容については、自己の考察の部分をさらに引き出せるとよい。 G/W 発表の場はMIRAI Project が最大の機会に成長し、学年内の中間発表から、複数学年の合同発表を実施し、安定感がでてきた。J1 の0/L 受信も引き続き実施。採点方法、段取り、会場手配等を工夫し、刺激策となり、また運営精度も向上した J2 の中学体験入学ツアーでは小学生たちを明るく丁寧に引率し、説明できた。明誠ファンをつくる内容をさらに検討していきたい。 説明会や体験学習会で登壇したり、講師助手として活躍したり、有志活動が計画的に取り組まれた。生徒の主体性や独創性を伸ばす機会として、チームワークを磨く機会として機能した。 ※0/L：オンライン ② 中学生徒会や委員会がそれぞれ行事運営に取り組んだ。交通安全教室、スポーツデイ、ダンスデイ、耐寒持久走、3送会(3月)など前向きに取り組んだ。 ③ 読書が習慣化し、作文コンテストなどで良い成果を収めた者が見られ、集団育成にも貢献した。一方で多少慣れが生じ、読書への集中力が乱れた者も散見された。	A 23% B 63% C 3% D 11%	◇もっとフィールドワークを行ってもいいのではと感じる。	A 12% B 88% C 0% D 0%	・中学体験ツアー参加者に中学生主体で取り組んでいることに感動した父兄がいた。 ▲読書の目的が違う生徒もいる(単語帳等)。 ・週に一度くらい、新聞を読んでほしい。伝え方、写真の撮り方から学べる。 ・主体性が育まれる良い取り組みであると思う。 生徒は良い体験ができている。 ・読書の奨励、朝読書は非常に良いと思う。 ・読書は読む力、内容を理解する力等身につく。取り組みを強化することは良い。 ・J2の中学体験ツアーの引率は明るく、ていねいにできたということで素晴らしいと思う。 明誠ファンを増やして欲しい。
	日本文化理解と国際教養養成(総合学習)	① 日本文化理解行事実施【(2)回/年】 J1 自然体験、富士山学習、地域探訪 J2 寺社宿泊研修、企業／都市探訪 J3 寺社・精神文化調べ、企業研修、地域・古都研修 目的理解と個々のテーマの設定	① J1 4月国立中央青少年交流の家宿泊研修、10月竜ヶ岩洞、フラワーパーク、大塚製薬袋井工場等探訪。 J2 4月可睡齋宿泊研修。10月東京オータムキャンプ、 1日目科学技術館(千代田区)、JICA(市ヶ谷)、東京大学(文京区)、Hイースト21宿泊・テーブルマナー学習(文京区) 2日目パナソニックセンター東京 クラス・班研修、羽田空港制限エリアツアー J3 4月 山梨県リニア見学センター、大石公園、忍野八海、10月関西修学旅行 バス2台で往復。明日香村のサイクリング班研修は変更。食事は会場食をクラス毎採	A 19% B 55% C 8% D 18%	・各学年行事で目的を明らかにして実施されている。 ◇修学旅行での自国文化理解は行えているが、国際交流を含めた国際教養養成を積極的に行う必要がある。	A 12% B 76% C 0% D 12%	◇大学で英語を学んでいる学生から話(講演)を聞く機会があったら面白いと思う。 ◇グローバル社会に適応できる人材育成の為、まずは自国の文化を理解してほしい。 ・校外学習が充実している。若いうちに外の世界に触れる事はとても良い経験となる。 ・MIRAI Project の運営の段取りの良さで活動がさらに発展したとのこと。振り返りをしつつ、良いところを共有して、これ以降もつなげて欲しい。

	日本文化理解と国際教養養成（総合学習）	② 講演や交流会の実施・探求活動 J1 郷土・企業 J2 医療・企業・進路 J3 医療・企業・進路 自己分析と展望 ※中間 経過 7/5 アンガーマネジメント講話(1～3 年) 保護者 5 名参加 ③ 英会話授業【週 1 回】とアウトプット実践 「Metro」の計画的活用 J1～J3 ④ 禅寺の活用 学校理解の促進と生活のヒント獲得 ⑤ 日本文化・国際教養講話／講演実施 ※全校講話含む	用した。連絡や全体指導も円滑に行うことができた。今年度も班研修はタクシーを利用（5 年目）。 ② J1 10 月竜ヶ岩洞・フラワーパーク探訪、大塚製薬、10 月「薬物の危険性・正しい薬の飲み方」警察・学校薬剤師による講演 J2 10 月「薬物の危険性・正しい薬の飲み方」警察・学校薬剤師による講演、10 月民間企業センター探訪、1 月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽 J3 4 月山梨県リニア見学センター見学、10 月「薬物の危険性・正しい薬の飲み方」警察・学校薬剤師による講演、1 月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽、3 月進路課長進路講話 「MIRAI Project」は J2J3 の同時展開実施。学級学年内で中間と最終の発表・コンテストを経て代表チームを決定した。代表チームによる発表会は内容的に充実した。J1 は上級生を OL 視聴をすることにより学びを深めた。今年度は運営の段取りのよさもあり、活動が発展した。 ③ TT 授業で副教材「METRO」を採用し、年間計画に忠実に授業を展開することができた。 ④ J 2 4 月可睡斎宿泊研修実施。道徳授業と併せて自分を見つめるきっかけを得るための場とした。 ⑤ 全学年ミニ屏風づくりを実施、計 2 h で地元を象徴的に表す絵付けを行った。事前学習や準備が不足した。段取りや評価の部分においても時間が不足していたと思う。				
Ⅱ 徳育の充実	基本的生活習慣の確立・理解と自己評価	① 身だしなみと挨拶の指導 校風検査【1 回／月】 事前事後指導の充実 ② TP0 に合わせた所作・マナー・人間関係・授業態度等を発達段階をふまえて、指導検証する。 打合せ、部会等にて情報交換し、一斉指導の手立てを共有する。 ③ 私物貴重品管理：整理整頓・持ち帰り 清掃指導の徹底 振り返り：なぜ必要かを理解 ④ 欠席・遅刻・早退の減少 基本的生活習慣の充実 振り返り：なぜ必要かを理解	① 月例校風検査は男女別で、複数の担当者で継続実施。頭髮以外は担任によるフォロー指導を行った（3 年目）。爪の長さ、ズボンの折り目不足が少し目立つ。 ② 概ね、SNS 対策や人間関係の問題に関して早めに対応できた。所作や態度の指導に関しては多少工夫が必要な観がある。中高一貫の意義を踏まえ、全員で即実践の場所としていきたい。 ③ 概ね適切に指導や管理が行われている。日常生活には隙は必ずあり、油断慢心することなく注意を払っていきたい。啓発の部分では全体指導も必要ではないかと思う。 ④ 通年欠席等一部目立つものの、概ね悪くはない。良好な学級もある。後期では流感の影響で増加し、不安定な傾向も断続的に見られた。気持ちや心構えについて継続的に啓発指導を要すると思う。	A 29% B 57% C 6% D 8%	・中学生は服装や頭髮などで乱れることもなく、特定の生徒を除けば基本的生活習慣は確立している。 ・高校生同様、少し早めの登校時間であるが、しっかりと朝礼を行えている。	A 22% B 78% C 0% D 0%	・服装の乱れがないのが明誠らしく素晴らしい。ぜひ継続してほしい。 ・生徒の身だしなみは問題なく、適切に指導されていると思う。 ・身だしなみと挨拶はよくできていると思う。 ・学習指導だけでなく、生活指導もしっかり行われている。 ◇先輩（高校生）を見習い、毎日のように呼びかけをしてほしい。 ・規則だけでなく、原則を考える機会にしたい。

		④ 生徒理解研修会 【全職員で実施】 成長面・プラス面・注意点等伝達 データ共有 ⑤ 心理検査の実施と評価の活用 ⑥ 随時良い点や現れ・変化をフィードバック、 全体で共有	③ カウンセリングを定期的に活用し、個別指導と協働 に活かした。今年度はもう1名のSCに臨時に支援をいた だき、知見を活かし、指導の精度を向上させた。 ④ フォーマットを変更し、生活や行動のあらわれを長 く共有し、生徒理解と指導の向上につながるように努め た。中高一貫の生徒指導を意識。 ⑤ 検査は未実施。各アンケートやカウンセリングを活 用し、生徒の様子を複合的に理解することに努めた。タ イムリーによく機能していると考ええる。 ⑥ 職員間や家庭と学校間のコミュニケーションが適切 に懇ろに行われている。根気よく注意深い対応が日々の 生活を支え、そして前進させている。		◇個性的で自己主張が強い生徒が見られるが、周囲と の調和がとれているかどうか注意し、対応していきた い。		・明誠中学は先生との距離が近く感じる。親身に 指導が行われている。
Ⅲ 健康な身体 の育成	団体行事の用意 団体行動や 行事運営の基本 も学習	① スポーツデイ実施 【参加率95%以上、（2）回／年】 相手・チームメイト・周囲の理解と 敬意・協働、切磋琢磨 日時の調整 ② 耐寒持久走取り組みによる身心の錬磨 事前の安定した生活習慣 体育での的確な準備・啓発 会場調整 【参加率95%以上】 ③ 体育大会を活用し、 チームワーク醸成・団体種目の記録向上 ④ 武道奨励 時数の確保 武道実施ねらいの理解と浸透 ⑤ 部活動奨励 【参加率85%以上】	① 7月 サッカー(男子)、ドッジボール(女子)を 実施した実施時期は要検討。 3月アルティメット(男子)とドッジボール(女子)を 実施した。参加率達成、いずれも意欲的で学校生活に欠 かせない。 ② 栃山川土手コースからグランドコースに開設22年 目にて変更。全体や個々をよく観察できる点、安全管理 の点や一体感など長所をよく実感理解した。参加率は目 標を割った。タイムとラップ管理に一工夫が必要か。 ③ 簡略化行進4年目。制限は解かれ多少元気や活気が 回復した。各種競技はバランスよく、円滑な運行が行わ れていると感じる。中学生も元気に取り組んだ。 ④ 男女武道の取り組みとして柔剣を実施した。柔道衣 等は着用しない。基本を学び、ねらいの理解と浸透に努 めた。 ⑤ 個性伸長と集団育成をねらいとし、参加を促す。 加入率：J11：66%、J12：62%、J21：81%、 J22：74%、J31：96%、J32：100%、 全体：79.9% 前年度より12.7%減少。過去最大の減少。 意識の変化を感じなくもない。外部団体に参加している 者が増えたか。様子に注意し、諸運営の参考にしたい。 ⑥ 11月予定通り実施。参観者は開催中100名前後 で盛況だった。J3中心に役割分担を行い、終始円滑に 会を運営。節度を適度に保ち活発に演技と鑑賞を楽しむ	A 40% B 52% C 3% D 5%	・概ね、狙いや目的を持って、行うことができている ように感じる。	A 22% B 78% C 0% D 0%	・高校生と一緒に参加できる事はよい経験であ る。 ・ダンスデイは毎回楽しそう。明誠中学の特長と なっている。 ・様々な計画があつてよい。熱中症対策もわすれ ずお願いします。 ・文武両道の校風がよい。
	団体行事の用意 団体行動や 行事運営の基本 も学習	⑥ ダンスデイ実施 明朗快活爽やかで、円滑かつ規律ある運行 周囲の理解と感謝の気持ち 創意工夫 自己表現力向上 【参加率95%以上】					

			ことができた。開会式や閉会式、演舞前後の挨拶紹介をもう少ししていねいになるとさらに好印象になると思う。				
IV 豊かな生活の追求	特別活動や課外活動の準備と充実	① キャリア教育の一斉の主体的計画的取り組み 探求活動：MIRAI Project 「world tours」 J1 「企業インターン」 J2 J3 特活・MD内に設定	① 9月から2月の間「総合」の時間を25時間前後配当し探求活動を実施。各学年は約15グループに分かれ、企業インターンワークに取り組んだ。グループワークで課題解決を試み、プレゼンのコンテストを学級から、学年、学校へと発展させ、英知を競演した。内容、計画、チームワーク等主体性と社会性を磨く好機となった。	A 31% B 56% C 3% D 10%	・学年行事や学校行事で伸び伸びとした中学生の姿が見られる。	A 12% B 88% C 0% D 0%	◇多感な時期であり、様々な体験は大切。知識では学べないことがあることを学ぶべき。 ・特色ある活動に参加することで探究心が磨かれ、自主性が身につくことにつながっている。 ・中高一貫の教育の良さがあらわれていると思う。 ◇普段目にしないものを見れば新たな発見、心の落ちつきが出てくるかもしれない。これからも続けていってほしい。 ・MIRAI Project など明誠特有な活動において、主体性、社会性を磨く好機になれたことが良かった。
	特別活動や課外活動の準備と充実	② 青藍祭に、部・学年・学級で参加 創意工夫し、実践力や協働性を磨く場とする リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 展示物には価値観教育への成果を記す ③ フィールドワーク【（2）回／年】、芸術鑑賞 自身の思考力や発想力向上に資する体験 学習を行う 事前事後指導の充実 ④ 行事や活動のまとめと発表・展示 学びについて自己分析し、学校・日常生活の改善に向けてヒントを得る。 自己表現力向上 活動の広報と理解向上	② J1はオリエンテーションキャンプ、J2は可睡斎の展示を行い踏襲。J3はアトラクションを展開、計画立案交渉、準備、進捗管理、会場セットやオブジェクト等熱心に取り組む協働的な学びの場となった。片付け等事後対応も例年同様よく、毎回感心させられる。 ③ 4月と10月に予定通り各学年行事を実施し、発達段階に応じた良い体験をした。事前指導にもう工夫ほしい観はある。鑑賞教室では中国太陽芸術団による芸能アラカルトを鑑賞し、楽しんだ。また、雑技の奥深さをあらためて実感した。 ④ 常套手段としてワークシートによる掲示を実施。また一方、プレゼンを積極的に作成し、タブレットの活用率も向上させた。グループワークとアウトプットの機会は増加した。DXの意識は上がったのではないかなと思う。フォロー指導によってDXの啓発も工夫していくとよいと思う。				

	特別活動や課外活動の準備と充実	⑤ 学習集団の向上（行事・授業等活用） プレゼンや議論を活かし、洞察力、コミュニケーション力や創意工夫する力を上げる 学年混成集団で活動することにより、自他への関心を深め、共通体験の価値の理解を深める。 ⑥ 各種団体の文芸コンテストに参加 想像力を発揮し、自他の理解を深める ⑦ 自尊感情や自己有用感を高め、学び合う仲間であることを自覚する 達成感や帰属意識を得る	⑤ 一つ一つの活動の重点目標の繋がりを踏まえ、年間の運営を意識した。育てる生徒像を学年と部で共有した。探求活動において学級、学年、中学でプレゼンを実施したことは大きな意義があった。中一に対しては、発達段階を意識し、新しい内容に取り組んだ。生徒の生きる力向上に寄与した。生徒も教員も根気強く計画的に取り組むことができたことは今後の励みになる。 ⑥ 定番のコンテスト等に参加を継続した。入選する作品もしばしばあり、機運や意識は向上した。普段の読書等から初め、全体の意識向上や雰囲気づくりにつながった。 ⑦ ワークシートの紙面等活用をさらに工夫し、自己分析を一層促したい。 年複数回のアンケートにおいても生徒は正直に振り返りをおこなっている。適時に生徒たちにフィードバックし、励まし・育成のポイントにしていきたい。 目立った活動実績に対して必ず顕彰し、ほめ言葉をかけてやりたい。同時に学び仲間や家庭の理解や支援に対しても敬意を言葉で直接・間接に表し、自他の成長を促進し、喜びや達成感を共有していきたい。				
--	-----------------	---	---	--	--	--	--

V 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	コ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン の 増 加	① 面談の奨励（希望面談も用意） 【3 or 4回／年】 ② 懇談会・保護者会等実施 ③ 行事関係文書・アンケート等配布・配信 「すぐーる」活用 【2週間以上前】 ④ 内進高校生の情報も含め生徒・ 中学部近況の発信 「藤枝明誠ニュース」等機関紙 授業配信 ⑤ 家庭との直接の通信	① 4月新年度個別面談、7・8月夏休み三者面談、 11月個別面談、6・11月オープンキャンパス期間希望面談、9 月～2月適宜個別面談による生活・学習進級指導等実施。 J3に関して高校進級指導を念入りに実施。 カウンセラー・養護教諭と連携し、家庭とのコミュニケーションに も注意した。 ② 6月地区別懇談会（学級／学年懇談会とした） 9月 J3修学旅行説明会、2月 学年学級懇談会 保護者懇談会の出席率は50～80％で増加し、昨今の社会状況等々 を鑑みるとよい（頼もしい）ものではないかと思う。 ③ 各行事2週間前後前に通知を配布または配信した。さくら連絡 網による通知は常套手段として活用。 ④ 3月 J1 J2J3 対象に大学進学の基本や現状について 進路課長より説明した。 目標の再確認と進路意識の高揚を図った。 内進生の進路啓発機会は早期から発達段階をふまえて 確保したい。 授業配信に関しては、全体で一斉に行うものは前期において数日 間ほどあった。学級によって臨機応変に個別対応する場合もあり、 オンライン化が定着した観がある。 接続に関して注意や配慮を要する場面もあったが、協力しながら 適切に対応できた。	A 29% B 52% C 3% D 16%	・担任が家庭との連絡を密に取っている様子が分か る。 ・様々な家庭状況やコミュニケーション能力など難し い生徒も少なくない中できめ細やかに対応している。 ・担任と生徒の会話の機会が多く、充実していると思 う。 ・担任と各家庭がしっかりと連携できているように思 う。 ◇地域の中での貢献や連携をもっと深めたい。	A 0% B 100% C 3% D 16%	◇一度出席した人の継続参加率は高いと思われ る。懇談会の様子を後で報告する機会があれば参 加率は向上すると思う。 ・個別面談はこれからも大切。 ・懇切丁寧な活動・対応が行われている。 ・保護者の学校理解を深めるためにも面談は特に 重要。 ◇保護者が安心して子供を預けられる学校であっ てほしい。 ・担任と各家庭の連携ができていることはとても 素晴らしい。 ・担任と家庭とのコミュニケーションが密にきめ 細やかにとられており、保護者は安心できる。
--	--	--	--	---	---	---	---

V 家庭・地域との連携	広報活動の充実	① 中学部通信・学級通信等の発行【月次】 ② 「すぐー」連絡網・SNS の活用 課題学習状況の確認 ③ オープンキャンパスや説明会等でのアンケート実施とフィードバック (FB) ④ 行事や発表会の広報と開放	① 月次担当制とした。近況と顕彰・啓発と学校理解の場とした。タイムイリーに発行され、清々しく学校の近況を伝達し、家庭との風通しを良くする点でも機能した。定着した観がある。 ② お知らせの配信や平時の連絡手段として情報提供し、よく機能した。なくてはならない存在になった。課題のチェックについては段取りも含めて工夫をしていきたい。 ③ オープンキャンパス時アンケート内の各意見・提案や質問に対し適切に対応した。参加率は30～50%弱で、若干増加した。 ④ 青藍祭、半日入学、体育大会、ダンスデイ、耐寒持久走などについて開放。ダンスデイは盛況だった。MIRAI Project についても工夫をさらに進めていきたい。	A 26% B 55% C 8% D 11%	◇地元近隣に、藤枝明誠中学の活躍を披露する場面を工夫していきたい。 ◇説明会以外、見てもらったり来てもらったりする機会があるといい。 ・中学部だよりの発行等を通して家庭に学校の様子を伝える工夫をしている。 ◇HP にもっと様々な活動を出していきたい。 ▲オープンテスト、理科体験、英語体験、講習会等全体的に参加者が減少傾向である。	A 0% B 76% C 0% D 24%	◇授業以外に参観できる機会を設けることは大切。 ◇地域に開かれた学校のイメージづくりも必要ではないか。 ◇HP だけでなく、SNS をさらに活用してはどうか。 ・「すぐー」の導入はたいへん有難い。便利に使用している。定期テストだけでなく、模試の結果も見られるとよい。
VI 生徒募集	渉外活動の充実	① 各行事の推進とフォロー作業 ・説明会 現役生徒の活用 相談機会の充実 アンケート結果の活用 (改善・FB・PR 等) ・半日体験入学 J2 生徒の活用 ・交流会 ・理科／英語体験学習会 現役生徒の活用 ・講習会 二回 5教科展開 ・オープンテスト 三回 内容の検討	① ・説明会 5/12 :55(50)名、6/22 :71(63)、7/13 :55(49)、8/3 :33(70)、9/14 :67(34)、 11/9 :60(100), 11/23 : 26, 2/8 :40 オープンテストや体験学習会と同時開催。生徒を登壇させ保護者の学校理解を促進した。 ・6年理科体験学習会 今年度は未実施 例年30～40名参加 ・講習会 ① 9/4 :39(49)名 ②10/9 :46(58)名 ・オープン ①7/13 :77(83)名 ②9/14 :77(96)名 ③11/9 :80(92)名 説明会時、学力と学校理解の面を明確に説明した。クオリティ向上も留意し、引き続き活動を展開する必要がある。同時に呼び込み策も練っていきたい。	A 31% B 46% C 15% D 8%	・渉外課を中心に説明会、各種体験会、授業見学、テストと実施し、来校者へのアポも積極的に行われている。 ・休日返上で大変努力されていると思います。 ・オープンテストや説明会が多く実施されているので充実していると思う。 ・学校説明会を中心に、本校の生徒の生活を理解してもらうことができている。 ・オープンテスト、理科体験教室等、充実した取り組みがなされていると思う。 ◇地元の生徒へのアピールを増やしたい。 ◇大洲、高洲、青島地区など、近隣の小学校からの入学者が増えるといい。 ▲オープンテスト、理科体験、英語体験、講習会等全体的に参加者が減少傾向である。 ◇渉外活動、・各種イベント（体験会・講習会など）の分析を共有したい。	A 12% B 88% C 0% D 0%	◇部活の見学をもっとできるとよいと思う。 ・諸活動たいへん充実している。 ・小学校や塾への訪問件数も多く、説明会、体験入学等、熱心な取り組みが行われている。 ・定員充足率の安定が、学校経営の安定である。 ◇体験入学で、在校生の声を聴いてもらう機会を拡大したらどうか。 ・渉外活動はかなり力を入れて取り組んでいると感じる。 ▲各説明会の参加人数が減少気味であることがきがりである。原因分析をして対策をしていくべき。 ・生徒募集は、学校の持続的事業安定への重要な指標である。 ◇地域ごとの把握と施策はどうか。 ◇過去10年遡り、過去から現状を把握しては。 ◇地域ごとの現状、今後の把握など、今後の可能性はどうか。 ◇他校も生徒募集活動の把握と活用はどうか。

VI 生徒募集	渉外活動の充実	・名簿の整理、DM の活用 直近の訪問活動 ※実績数（ ）内数値は昨年度の数値を表す ※中間 経過 5/24 説明会 児童 18 保護者 21 6/28 半日体験入学 6 年 児童 44 保護者 63 7/12 オープンテスト① 6 年 児童 44(52) 保護者 38 8/2 理科体験学習会 4/5 年 児童 55 保護者 47 ② 小学校や塾への渉外活動 範囲 訪問・タイミング頻度 ※中間 経過 小学校訪問(98 校) 志太・榛原・小笠・静岡 (安倍川以西) 5 月 青藍祭・説明会 案内 7 月 理科体験 学校案内 塾訪問(65 校) 志太・榛原・小笠 6 月 説明会案内 7 月 学校案内 過去問 理科体験案内 ③ 各種行事の活用；公開と広報 ④ 「学校案内」 リーフレット；入試関連行事 ポスター作成 グッズの活用	・入試 一次 68 (75) 名 : 単 53 (63) 併 15 (12) 二次 2 (2) 名 : 単 2 (2) 併 0 (0) 募集定員 70 名になり 7 年目、58(65)名入学予定。併願が 3 名増加。単願率が 78(84)%に減少し、例年並みになった。女子は 55(42)%に増加した。受験者数は減少した。併願生の戻りは 4 名。 ・4・5 年説明会 8/3 (土) : 33(49)名 11/23 (土) : 24(50)名 2/10 (土) : 40(100)名 ・4・5 年体験学習会 8/3 (土) : 50(50)名 理科 11/25 (土) : 26(49)名 英語 2/10 (土) : 54(88)名 理科 実施日時やキャンペーンなど、準備や段取りに留意していきたい。 ② 小学校訪問約 100 校。 5・6 月 (学園祭前) ・7 月 (理科体験前) ・10 月 (英語体験前) ・1 月 (理科体験前) 等を基本として訪問した。5 月はアポを取り訪問した。 志太・小笠・静岡地区諸々の塾を複数教員が分担し訪問。「学校案内」・「入試行事リーフレット」・学園祭／体験学習案内・通学バス案内・通学費補助案内・過去問題等配布。また行事の都度 DM を送付、乃至電話で各行事の参加を促進した。 ③ 学園祭、定期演奏会等学校関係者に対して招待した。 ④ 入試行事年間予定リーフレット、各種リーフ (講習会・オープンテスト・体験学習会・通学補助支給等) を配布ないし送付。体験学習会用自家製ポスター掲示をを校内外で適時推進した。				
-------------------------------	--------------------	---	--	--	--	--	--

Ⅶ 教 育 施 設 ・ 設 備 の 活 用	快適な教育環境の実現	① 教室内外美化整理整頓／管理 ロッカー／机の中 貴重品 BOX 廊下／階段 清掃／用具入れ 流し／周辺美化 トイレ／用具入れ 靴箱／傘立て 電源スイッチ／電源管理 体育館／雨天練習場 特別教室 施錠管理 管理目的の理解 【放課後巡回 複数回／日】	① 概ね通年良い整理整頓状況を維持することができた。行事の後は、ロッカー内の復元が遅れることが若干あったり、ロッカー・机の中・靴の中等バランスよく整頓ができてないことがあったり、注意を要する時もあった。 移動教室時の机上片付けや更衣の整頓、電源管理等意識的に行動ができていますが、十分ではないことも留意しておきたい。 清掃後の雑巾洗いと整頓については一部要注意である。いずれもSHR やLHR時に対応や啓発は即時可能である。	A 16% B 60% C 19% D 5%	・築40年以上の割にはきれいに感じるが、修復、更新が必要な個所が出てきている。 ◇専任以上の教科教育のスタッフ拡充を検討してはどうか。 ◇猛暑対策や衛生対策が急務だと思う	A 12% B 76% C 0% D 12%	・東館1Fのトイレ改善を望む。 ・抜き打ち避難訓練の実施は有難い。 ◇防災に関する訓練に加えて、特別授業も必要（地震、熱中症対策等）。 ◇普段からの整理整頓で、災害時に物品の散乱や避難経路がふさがれるリスクを減らすことが出来る点もあらためて指導しておきたい。 ・校内環境はいつもきれいに保たれていると思う。 ・年々暑さが増している昨今、エアコンの整備は本当によかった。 ◇抜き打ちの避難訓練で、冷静に対応ができたことは、いざという有事の際に役立てられ、命を守ることにつながる。ぜひ継続してほしい。
		② 駐輪場管理 使用方法、管理目的の理解	② 特に目立った問題等なく、良好な状況を一年間維持した。現状把握を怠らず、使用方法について時折注意喚起、啓発指導し、トラブルの予防をしていきたい。				
		③ 設備・備品の保全 【放課後巡回 複数回／日】	③ エアコンの整備は実に有難く、また頼もしいものであった。 概ね公共物を適切に使用することができた。乱暴な扱いや行動はほぼなかった。 教室内の下壁が破損しやすいことについては周知し、啓発指導も時折行いたい。 机椅子の保全については、机の表面の消耗が進行しており、具体策が必要である。				
		④ 防災教育と訓練の実施 【2回／年】	④ 4・9月防災避難訓練を行い、ともに一次・二次避難訓練で、新しい企画も含まれていた。 4月は二次避難場所である体育館2Fで自衛隊による防災教育も併せて実施、救助方法のデモンストレーションを見学した。一部の生徒は実演に参加。その難しさ等実体験し、全校は関心をもって見守っていた。 9月は祝日明けの火曜日の一時間目に抜き打ちで実施。グラウンドに二次避難をした。比較的冷静に対応でき、積年の成果が発揮された。				